

古楽器アンサンブル ～バッハに至るまでの道～

16世紀ルネサンスの音楽

&

17世紀バロック初期の音楽



中村洋彦

頼田 麗

笠原雅仁

16世紀 コンソート

4月20日〔金〕 開場 18:00 開演 18:30

京都文化博物館

(地下鉄「烏丸御池駅」下車、5番出口から三条通りを東へ徒歩3分)

入場料：¥2,000(全席自由)

主催：バッハ週間 in 京都 2012 実行委員会

企画運営：シュテファン・パルム、ヨゼフ・プロッチカ、八木健次、津田能人

後援：神戸・大阪ドイツ連邦共和国総領事館、ドイツ学術交流会(DAAD)、京都放送(KBS)、
京都新聞社、同志社中高同窓会、京都市文化芸術企画課、
(財)京都市音楽芸術文化振興財団 [3/24、3/31、4/28、5/3]

共催：同志社教会 [5/6]、FM 京都、
京都コンサートホール(財)京都市音楽芸術文化振興財団 [3/23、3/30]

お問い合わせ：エラート音楽事務所 (075) 751-0617

<http://erato.musical.to/>

— バッハ週間 in 京都 2012 3月20日(火・祝)～5月12日(土) —

◆16世紀コンソート

ルネサンス音楽、特に西洋と日本の交流があった16世紀後半の音楽から、17世紀バロックの幕開けの頃の音楽をレパートリーとする、リコーダー、歌、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュートによる古楽アンサンブル。2010年結成。

中村 洋彦 (リコーダー、ルネサンス・フルート)

エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業。第4回全日本リコーダーコンクールにおいて最優秀賞・朝日放送賞を受賞。1981年～84年に渡欧、古楽奏者としての研鑽を積む。1987年、第1回リコーダー・リサイタルの成果に対して大阪文化祭奨励賞を受賞。リコーダーを花岡和生、フラウト・トラヴェルソを有田正広の各氏に師事。1992年及び95年にフランス政府の招請により、「ロワール河古城音楽祭」に出演。その後『笛の楽園』と題してリサイタル・シリーズを開催する。1999年「南蛮音楽伝来」(京都の秋 音楽祭'99)にてプログラム構成及び演奏を担当する。現在、相愛大学音楽学部非常勤講師、16世紀コンソート主宰、ダンスリー・ルネサンス合奏団所属。

頼田 麗 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

相愛大学音楽学部卒業。チェロを日比野忠孝、斎藤建寛の各氏に師事。ヴィオラ・ダ・ガンバ及び室内楽を平尾雅子氏に師事。2001年ロータリー財団の国際親善奨学生としてドイツへ留学。その後スイスのルガーノ・コンセルバトリーオにてV.ギエルミ氏に師事。2002年よりバーゼル・スコラ・カントールムにてP.パンドルフォ氏のもとで研鑽を積み、2006年ディプロム・コンサートを行い卒業。2007年ドイツの第4回テレマンコンクールにて「ペーレンライター賞」を受賞。2008年兵庫県知事グランプリ賞を受賞。現在、演奏活動の他、古楽イベントの企画にも積極的に取り組んでいる。

笠原雅仁 (リュート、歌)

武蔵野音楽大学声楽科にて宮本昭太氏に師事。卒業後、有村祐輔氏のもとで声楽、古典音楽理論を学んだ後、1998年に渡英。ロンドンの英国王立音楽大学、大学院古楽科にてナイジェル・ロジャース、スティーブン・ロバーツの各氏に声楽を、ヤコブ・リンドベルイ氏にリュートを師事。その後、全額奨学金を得てトリニティー音楽大学、大学院古楽科にてさらに研究活動を進める。2002年コルネットを学ぶために仏国のパリ市立高等音楽院古楽科に入学し、ジャン・テュベリ氏に師事。現在、初期バロックのイタリア音楽を主なレパートリーとする”アンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ”を主宰。

◆賛助出演

高田富美 (オルガン)

相愛女子大学音楽学部オルガン専攻卒業。ドイツ・ヴェストファーレン州立教会音楽学校に留学。久保田清二、広野嗣雄、A・シェーンシュテット、R・ブリーゲンの各氏に師事。1993年以来、オルガンとその他の楽器・声楽による演奏会を「音楽の散歩道」シリーズで企画している。現在、独奏、室内楽・合唱などとの共演等、演奏活動を続ける傍ら即興演奏をケルン音楽大学教授J・ゲッファートと彼のアシスタントに学ぶためときおり渡独、ドイツでもコンサートを行っている。奈良YMCA音楽院講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

